

「若者のクルマに関する意識調査 2017」

OKBグループのシンクタンク (株)OKB総研 (岐阜県大垣市郭町 2-25 社長 五藤義徳) は、
標題の調査結果を取りまとめましたのでご案内します。

当社では、OKB 大垣共立銀行主催の新入社員研修会の受講者を対象に、意識調査を実施していま
す。今年度は、就業意識など例年の質問に加えて、**クルマに関する意識**について調査しました。なお、
調査結果の全文は、7月12日発刊の当社の機関誌「レポート vol.166」に掲載しています。

《要約》

◆2010年度との比較

※本調査で「クルマに関する意識」について調べたのは、2010年度に続き2回目となることから、前回と同じ質問は比較を行った。

- ・マイカーの取得時期はやや後ろ倒しの傾向
- ・購入費用の許容範囲はやや上昇傾向。回答が最も多かったのは「**101~150万円**」

◆購入時に重視したい要素

- ・「運転のしやすさ、操作の楽しさ」「外観や室内のデザイン」など、**自身の価値基準を重視**
- ・自動運転機能を重視する度合いは、安全機能や環境（エコ）性能と比べると低い

◆購入動機（購入のきっかけ）や購入行動

- ・「機会」（引っ越し・転勤や結婚）より、「**経済的余裕**」（収入や預貯金）がポイント
- ・回答者の**4人に3人は**「価格や条件が合えば、**中古車でも構わない**」傾向（→中古車許容派）
- ・回答者の**5人に1人は**「**レンタカーや、カーシェアリングが利用できれば、購入・買い替えなくてもいい**」傾向（→レンタカー・カーシェア派）

◆クルマに対するイメージ

- ・日常の「移手段」または「自己表現」できるものという捉え方が相対的に多い
- ・保有コストの負担感は大きい

◆「中古車許容派」のクルマに対する意識

- ・日常の「移手段」という捉え方がより強い

◆「レンタカー・カーシェア派」のクルマに対する意識

- ・「移手段」という捉え方と、「自己表現」という捉え方の両面を肯定
- ・保有コストや環境負荷に対する意識が極めて高い
→クルマ保有のメリットとデメリットを認め、「自分にとっての良さや価値」を上手に活用し
ようとする若者像。**シェア経済型サービスをより自然体で受け入れられる意識とも言える**

資料配布：名古屋金融記者クラブ 大垣市政経済記者クラブ

【本件に関するお問合せ先：(株)OKB総研 名古屋オフィス 中村 絃子 Tel.052-564-1520】

*調査の概要

- 調査対象：岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県所在の企業 279 社の新入社員
- 調査期間：2017年(平成29年)3月15日~4月10日
- 調査方法：OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(1,161人)に無記名方式で実施
- 有効回答者数：1,135人(有効回答率97.8%)
- 回答者属性：

		全体	男性	女性
有効回答者数		1,135名	594名	541名
平均年齢		21.4歳	21.5歳	21.3歳
最終学歴	高校卒業	37.4%	35.9%	39.1%
	専門学校卒業	8.8%	8.6%	9.1%
	短期大学卒業	5.6%	3.0%	8.5%
	4年制大学卒業	44.7%	48.2%	40.9%
	その他	3.4%	4.2%	2.4%
居住地	岐阜県	48.0%	47.0%	49.2%
	愛知県	42.5%	42.0%	43.0%
	三重県	1.5%	1.9%	1.1%
	滋賀県	1.0%	1.4%	0.6%
	その他	7.0%	7.8%	6.2%
業種	建設業	8.9%	13.0%	4.4%
	製造業	40.4%	47.3%	32.8%
	卸売業、小売業	12.0%	9.9%	14.3%
	医療・福祉	13.0%	6.9%	19.8%
	サービス業	8.7%	8.1%	9.3%
	その他	16.9%	14.8%	19.5%

(注) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある(以下同じ)。その他には不明を含む。

(1) 運転免許及び保有状況と購入予定

…マイカー取得はやや後ろ倒しの傾向

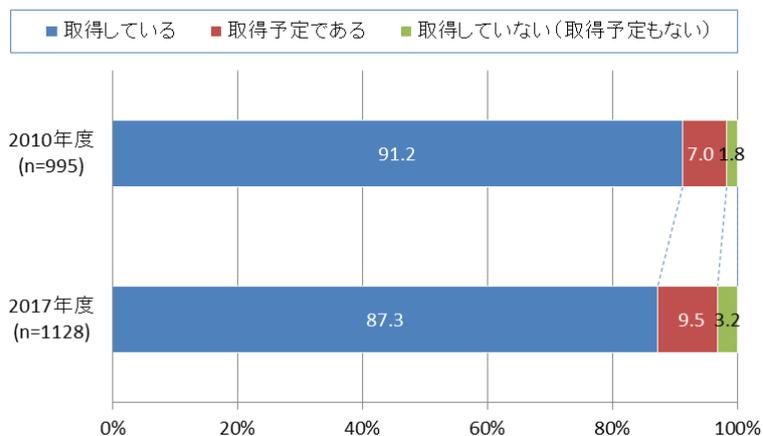
運転免許は、全体の87.3%が「取得している」、9.5%が「取得予定」となった。2010年度と比べると、「取得している」との回答率はやや低下している（図表1）。

運転免許を「取得している」または「取得予定」と答えた人（以下：免許取得者）の57.2%が自分自身のクルマを保有していたが、2010年度（61.5%）と比べると4.3%低下し、6割を下回った（図表2）。

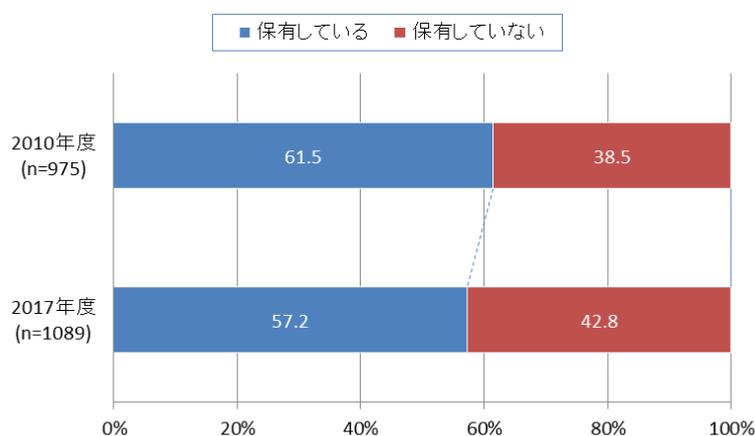
近い将来のクルマの購入予定については、クルマを保有していない免許取得者の54.5%が「予定あり」と回答し、2010年度（52.3%）と比べて2.2%上昇した（図表3）。

今回の調査では、免許取得者の半数以上がすでにマイカーを保有していたものの、保有率は2010年度より低下した。一方、近い将来購入予定と回答した免許取得者の割合は2010年度より上昇したことから、マイカーの取得時期がやや後ろ倒しになっている傾向がうかがえた。

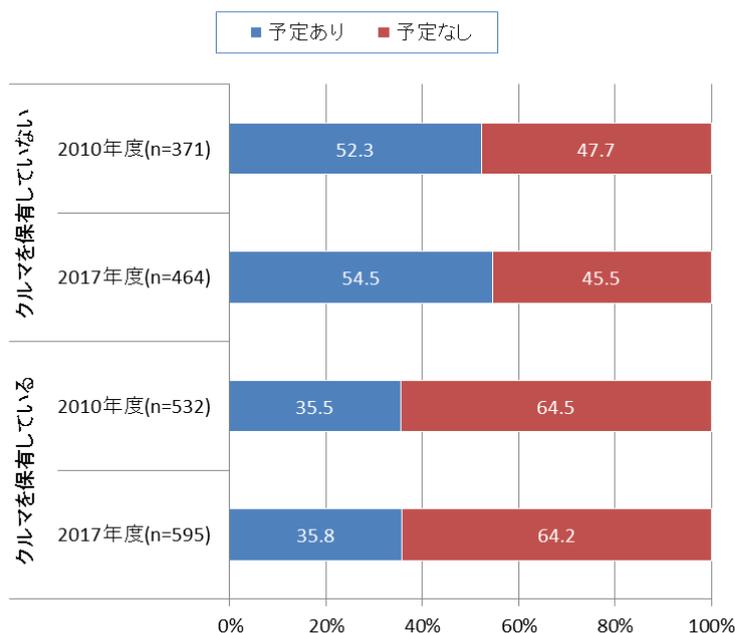
図表1 運転免許の取得状況



図表2 クルマの保有状況（免許取得者）



図表3 クルマの購入予定（免許取得者）



(2) 購入費用の許容範囲

…許容する価格帯はやや上昇

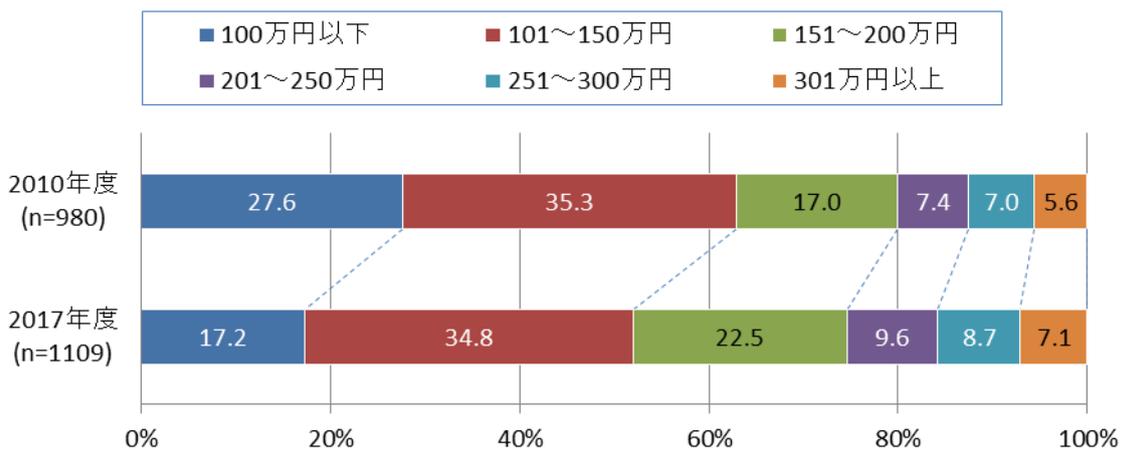
クルマ購入の際に支払ってもよいと思う費用を尋ねたところ、「101～150万円」（34.8%）が最も多く、次いで「151～200万円」（22.5%）となった（図表4）。

2010年度も「101～150万円」（35.3%）が最も多かったが、2位は「100万円以下」（27.6%）だった。このことから、許容する価格帯はやや上昇したと考えられる。

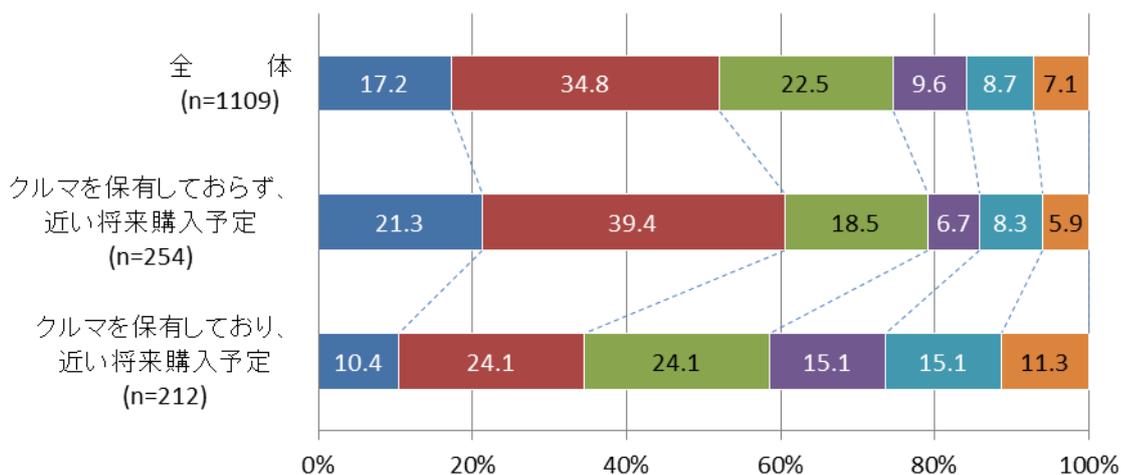
総務省の小売物価統計調査によると、軽自動車の平均価格（年平均）は2010年に107万円だったのが2015年は132万円、普通乗用車の平均価格（同）は2010年に275万円だったのが2015年は300万円とそれぞれ上昇した。安全装備などが充実したためだ。こうした平均価格の上昇が、若者がクルマを購入する際に検討する価格帯にも影響しているのではないかと思われる。

また、クルマを保有しておらず近い将来購入予定の約6割が150万円以下（「100万円以下」か「101～150万円」）と答えたのに対し、すでに保有していて新たに購入予定の人でこの価格帯を選んだのは約35%にとどまった。若者の間でも、買い替え時にワンランク上の価格帯を検討する傾向は見られるようだ。

図表4 クルマの購入費用の許容範囲
◆2010年度と2017年度の比較



◆クルマの保有状況別比較（2017年度）



(3) 購入時に重視したい要素

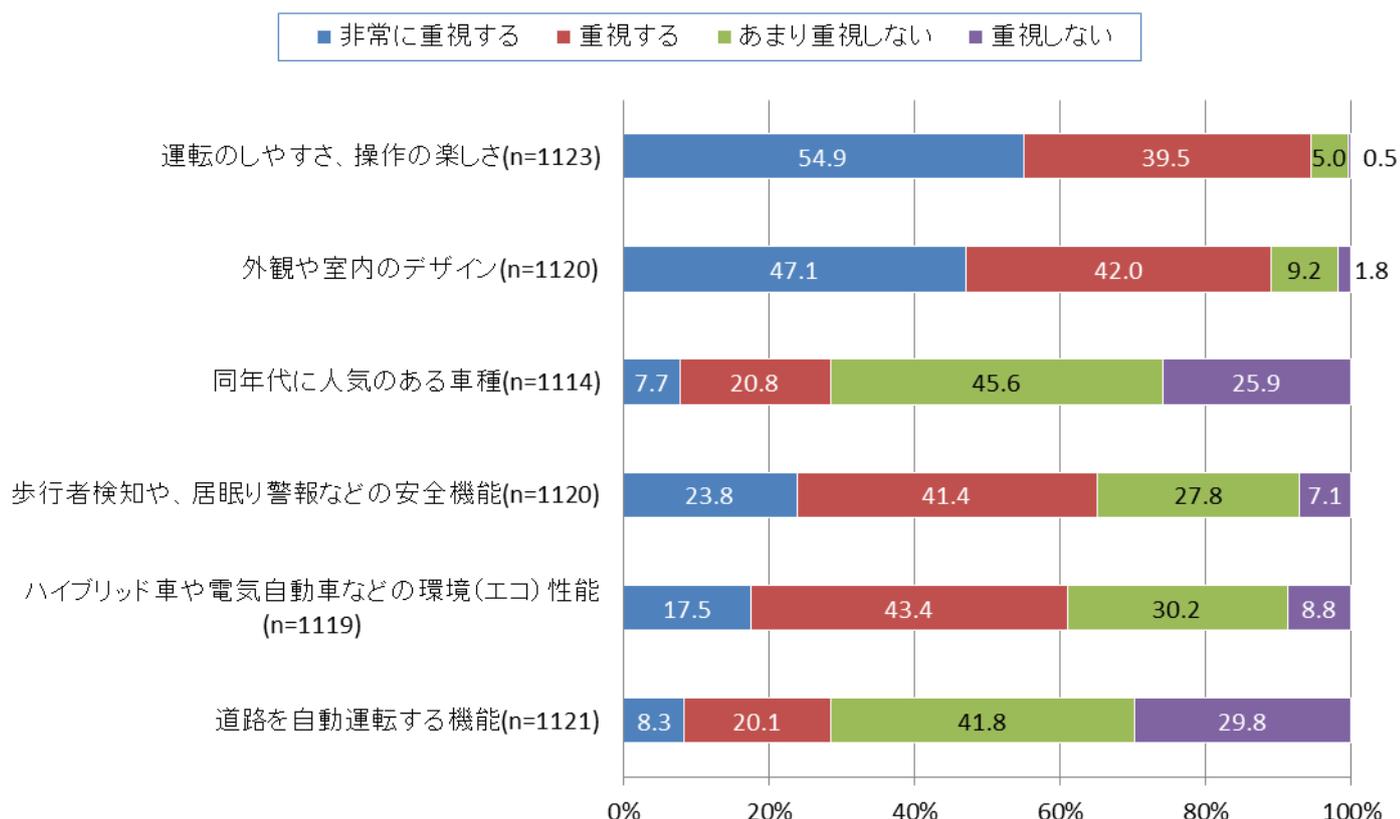
…自身の価値基準を重視

「クルマを買う場合（予定のない人はもし買うとしたら）、少々価格が高くても重視したい要素は何ですか」として、6項目についてそれぞれ重視する程度を尋ねたところ、「運転のしやすさ、操作の楽しさ」に対する重視度（「非常に重視する」と「重視する」を合わせた回答率）が最も高く、94.4%に上った。次いで「外観や室内のデザイン」が89.1%になった。一方、「同年代に人気のある車種」は28.5%にとどまった（図表5）。

以上から、マイカーを選ぶ際は、容易に運転できるか、自分好みのデザインであるかといった「自身の価値基準」を重視し、必ずしも人気や売れ筋だけにこだわらない姿勢が見られる。

また、クルマの具体的な機能や性能に関しては、「歩行者検知や、居眠り警報などの安全機能」の重視度が65.2%、「ハイブリッド車や電気自動車などの環境（エコ）性能」の重視度は60.9%となった。一方、「道路を自動運転する機能」の重視度は28.4%で、自動運転車に対する関心や期待が大きく高まっているとは言い切れない状況が浮かび上がった。

図表5 クルマ購入時に重視したい要素



(4) 購入動機や購入行動

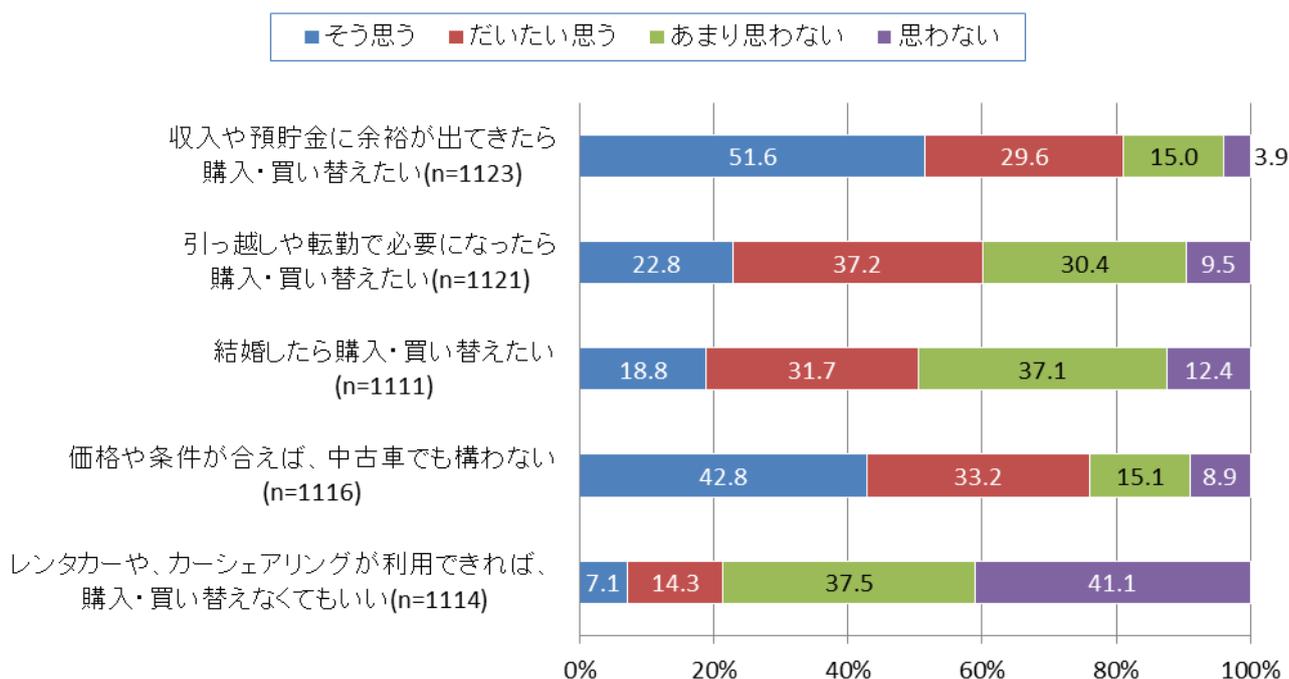
…経済的な余裕が購入のポイント

「クルマ購入（買い替えを含む）のきっかけなどについて、どのようにお考えですか」として、5項目についてそれぞれ尋ねたところ、「収入や預貯金に余裕が出てきたら」に対して51.6%が「そう思う」と回答し、「引っ越しや転勤で必要になったら」（22.8%）、「結婚したら」（18.8%）を大きく上回った（図表6）。

また、「価格や条件が合えば、中古車でも構わない」に対しては、42.8%が「そう思う」と回答した。「だいたい思う」と答えた人を合わせた回答率は76.0%となり、4人のうち3人は必ずしも新車にこだわっていないことがうかがえた。

「レンタカーや、カーシェアリングが利用できれば、購入・買い替えなくてもいい」に対しては、7.1%が「そう思う」と回答した。「だいたい思う」と答えた人を合わせると21.4%で、5人に1人はカーシェアなどのサービスが充実していれば「クルマを持たない生活」を選ぶ可能性があることがうかがえる。

図表6 クルマの購入動機・購入行動



(5) クルマに対するイメージ

…「移動手段」または「自己表現」。保有コストの負担感は大い

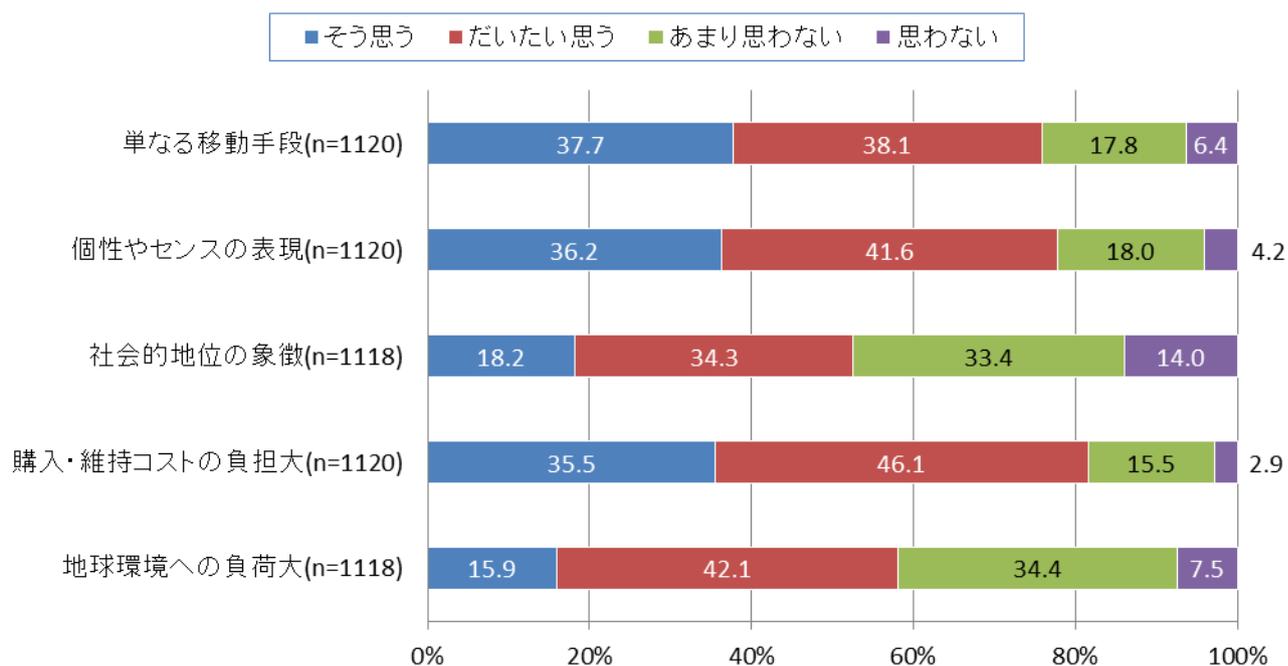
「クルマに対するイメージについて、どのようにお考えですか」として、5項目についてそれぞれ尋ねたところ、「単なる移動手段」に対して37.7%、「個性やセンスの表現」に対して36.2%が「そう思う」と回答した。一方、「社会的地位の象徴」に対しては18.2%にとどまった（図表7）。

クルマは日常の移動手段として捉えている人や、自分らしさを表現できるものとして捉えている人が相対的に多く、クルマを持つことが周囲に対する社会人の証であると捉えている人は相対的に少ないことがうかがえる。

また、「購入・維持コストの負担大」に対しては、35.5%が「そう思う」と回答し、「だいたい思う」を合わせると全体の8割を超えた。保有コストに対する負担感は大いことが見て取れる。

「地球環境への負荷大」に対しては、15.9%が「そう思う」と回答し、2010年度（16.7%）を下回った。「だいたい思う」を合わせた回答率は58.0%で、こちらも2010年度（66.0%）より低下した。環境（エコ）性能の向上でネガティブなイメージが和らいだと見られる。

図表7 クルマに対するイメージ



(6) 「中古車許容派」と「新車派」の意識比較

…「移動手段」の中古車許容派、「自己表現」の新車派

(4)の購入行動分析では、「価格や条件が合えば、中古車でも構わない」という傾向が比較的強く見られた。そこで、中古車でも構わないと考える人と、そうでない人の意識比較を行った。

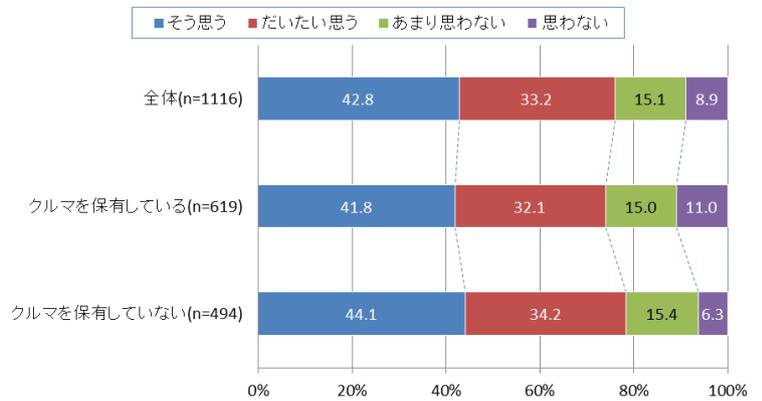
まず、「中古車でも構わない」に対する回答と、保有状況の回答のクロス集計を見ると、クルマ保有の有無による大きな差はなかった(図表8)。

次に、「価格や条件が合えば、中古車でも構わない」に対して「そう思う」と回答した人を「中古車許容派」、「そう思わない」と回答した人を「新車派(中古車非許容派)」として、クルマに対するイメージの回答状況を比較した(図表9)。

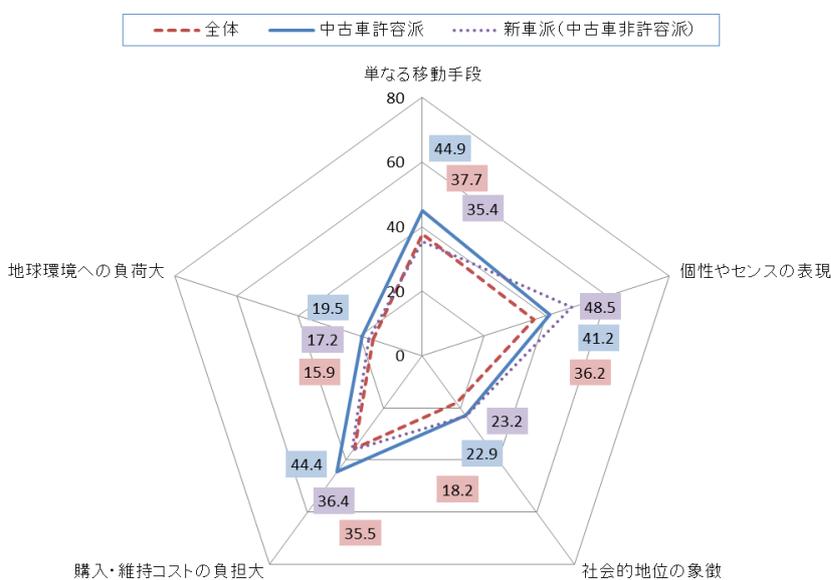
その結果、「中古車許容派」は、「単なる移動手段」「購入・維持コストの負担大」「地球環境への負担大」の3項目において、「新車派」よりも肯定する割合が高かった。一方、「新車派」は、「個性やセンスの表現」について、「中古車許容派」よりも肯定する割合が高くなった。

以上から、「中古車許容派」は、クルマは日常の移動手段という捉え方がより強く、「新車派」は、クルマは自分らしさを表現できるものという捉え方がより強いことがうかがえる。また、「中古車許容派」は、「新車派」と比べて、クルマの保有コストに対する意識がより高いことがうかがえた。

図表8 「価格や条件が合えば、中古車でも構わない」回答の保有状況別比較



図表9 「中古車許容派」と「新車派」のクルマに対するイメージ比較
(各項目について「そう思う」と答えた人の割合(%))



(7) 「レンタカー・カーシェア派」と「マイカー派」の意識比較

…レンタカー・カーシェア派は「移動手段」と「自己表現」の両面を肯定

(4)の購入行動分析では、「レンタカーや、カーシェアリングが利用できれば、購入・買い替えなくてもいい」と考える層が一定程度見られた。そこで、カーシェアなどのサービスが充実していればマイカーを持たなくてもよいと考える人と、そうでない人の意識比較を行った。

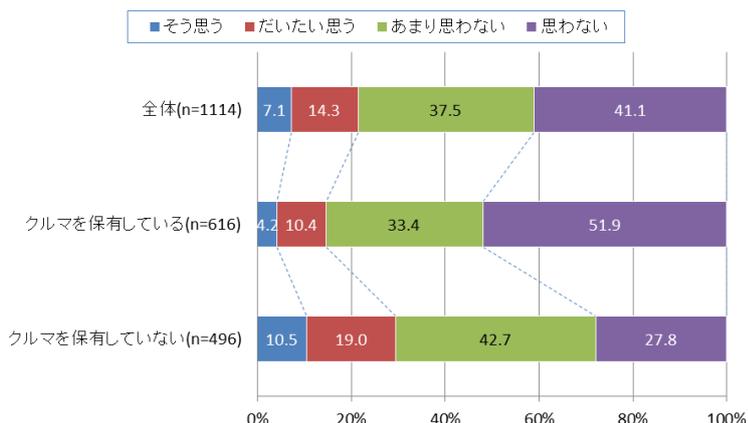
まず、「レンタカーや、カーシェアリングが利用できれば、購入・買い替えなくてもいい」に対する回答と、保有状況の回答のクロス集計を見ると、クルマを保有していない人の方が、保有している人よりも「買わなくてもいい」とする回答率が高かった(図表10)。

次に、「レンタカーや、カーシェアリングが利用できれば、購入・買い替えなくてもいい」に対して「そう思う」と回答した人を「レンタカー・カーシェア派」、「そう思わない」と回答した人を「マイカー派」として、クルマに対するイメージの回答状況を比較した(図表11)。

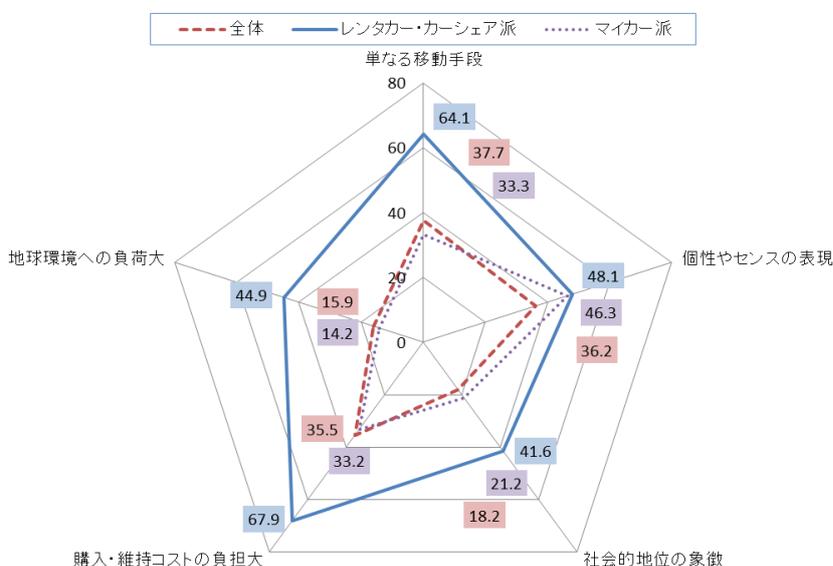
その結果、「レンタカー・カーシェア派」は、5項目すべてにおいて、「マイカー派」より肯定する割合が高かった。このうち「マイカー派」との差が最も大きかった項目は「購入・維持コストの負担大」(ポイント差34.7)で、次いで「単なる移動手段」(同30.8)となった。一方、「マイカー派」との差が最も小さかった項目は「個性やセンスの表現」(同1.8)だった。

以上から、「レンタカー・カーシェア派」は、「マイカー派」と比べて、クルマは日常の移動手段という捉え方がより強いが、同時に「マイカー派」と同程度に自分らしさを表現できるものという捉え方をしていることがうかがえる。さらに、クルマを持つことが社会人としての証であるという捉え方もより強い。また、「レンタカー・カーシェア派」は、「マイカー派」と比べて、保有コストや環境負荷に対する意識が極めて高いことも見て取れる。

図表10 「レンタカーや、カーシェアリングが利用できれば、購入・買い替えなくてもいい」回答の保有状況別比較



図表11 「レンタカー・カーシェア派」と「マイカー派」のクルマに対するイメージ比較(各項目について「そう思う」と答えた人の割合(%))



以上